新・山と花のたより 228号

２０１９年８月１５日　　松尾　忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
ＨＰhttp://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

北海道・大雪山の花々

「いつでも元気」読者と行く登山旅行　　今年は大雪山

健生会友の会会員で行っている「『いつでも元気』読者と行く登山旅行」は今年大雪山登山だった。
参加者は 11 人、女 8、男 3。

富良野・美瑛を眺めて層雲峡へ

7 月 30 日 9 時 55 分に新千歳空港に降り立った一行は 2 台のレンタカーで富良野町・美瑛町の美しい農村風景を楽しみながら北上。旭山動物園で小休憩の後、大雪山・北の登山口・層雲峡に投宿。

ほぼコースタイムで黒岳に

翌 31 日は**大雪山黒岳登山**。8 時に宿を出て、ロープウェイとリフトを乗り継ぎ 7 合目に。そこから岩のゴロゴロした急登を花を見ながら登る。

↑エゾノツガザクラの大群落

↑シナノキンバイ？

イソツツジ、タカネトウウチソウ、カラマツソウ、ウコンウツギ、ウサギギク、ダイセツトリカブト、エゾノレイジンソウなど花が途切れない。中でもシナノキンバイ(エゾノキンバイソウか？)の鮮やかな黄金色の群落が疲れを癒してくれる。
歩き始めて 1 時間 20 分、コースタイムに近い時間で黒岳山頂(1984m)に到着。平均年齢 73 才弱の集団登山としては立派。

烈風の中で咲く美しい花々

しかし頂上で待っていたのは霧と烈風だった。風は止みそうになく、時には身体そのものをさらわれかねない強さで吹き募る。やむなく少し後退してどうするか相談。結局下山する 6 人と分かれて、5 人が先に進む。

↓チシマツガザクラ

山頂に戻った 5 人は、濃霧に視界を狭められつつも、黒岳石室（素泊まりの山小屋）に向けて下る。石室でトイレを借り、昼食を摂った後、「雲の平」と呼ばれる地域に。足元に広がる高山の花たちに歓声を挙げる事しばしば。アオノツガザクラ、エゾノツガザクラ、チシマツガザクラ、エゾツツジ、エゾコザクラ、イワブクロ(タルマイソ

ウ)、ホソバウルップソウ、ウスユキトウヒレン、チシマヒョウタンボクなどなど。

女性たちが感動した峡谷火まつり

8 月 1 日は赤岳に登る予定だったが、雨のため中止。北海道立旭川美術館の企画展を観た。私は絵画を観たかったので当てが外れたが、みんなは「英国現代からくり人形の世界」展が面白かったようだ。

この日の夜、層雲峡で**「第 57 回峡谷火まつり」**が行なわれた。体調万全でない私は遠慮したが、女性たちは全員見物に出かけ、峡谷にこだまする「火まつり太鼓」「アイヌ民族舞踊」「花火」など、感激して帰ってきた。

↑コマクサ

↑赤岳への道

花、眺望、雪渓、リス、

8 月 2 日 5 時出発で赤岳に向かう。快晴。登山口からコバノイチヤクソウ、ヨツバシオガマ、ウメバチソウ、ヤマハハコなどが続く、まもなく第一花苑を通る。ウコンウツギの群落が次々と現れる。第二花苑、駒草平など様々な花を観ながら登る。チングルマ、エゾコザクラの群落、ミヤマリンドウ、エゾヒメクワガタ、イワギキョウなどの可愛い花、そして眼前に広がる大雪の大自然、見飽きることのない景観に見惚れながらも、9 時前に**赤岳山頂**（2078m）に着いた。コースタイムで登り切ったのだから、これも又見事。

北海道の屋根のど真ん中

南に鋭くとがった白雲岳、そしてそのはるか向こうにトムラウシ山の独特の姿、西には北海道最高峰の旭岳、北には二番目に高い北鎮岳と黒岳、斜面と谷間を埋めて輝く雪渓や雪田、将に北海道の屋根・大雪山のそのど真ん中にいるのだ。

復路もゆっくり歩いたが、エゾシマリス（画像右）が 6 回も姿を見せてくれた。

↓エゾコザクラ

3 泊 4 日だったが、北海道の夏を満喫した山旅だった。参加者全員に感謝！

自然守る地道な努力

登山道で**カラフトルリシジミの撮影をしている高齢者、そして「調査員」腕章を巻いて花とマルハナバチとを調べている人に出会った。自然を守る地道な取り組みに頭が下がる。感謝、感謝。**